



日本が抱えている問題
少子化 / 高齢化 / エネルギー / 環境 / 移民 / 教育 / 医療 / 地震 / 津波

日本では少子高齢化が進んでいる。それにより、若年労働力の比率が下がってきている。このため、経済発展や規模を維持するには労働力の維持が必要不可欠である。

この問題に対し、日本は、外国人労働者で補っている。

その住環境において外国人コミュニティをいかに地域コミュニティに組み込むか【社会的統合】が重要である。しかし、今現在は社会的統合がうまくいっておらず、3つの問題が明確になっており、その3つが職_work_家_home_地域_communityである。

職_work

【先進国】が外国人労働者に求めているのは、熟練労働者 / 専門職 (IT分野の技術者) に対して、多くの労働者は非熟練労働者である。

家_home

外国人労働者が住宅を確保することは、各種証明などで困難を伴うことが多い。非熟練労働者などは家賃が低い地域に集まる傾向がある。地域コミュニティに馴染めない外国人労働者が孤立化するケースも見られる。

地域_community

周辺住民とのコミュニケーションは重要な事で、言葉が通じない事で、滞在が長期化するにつれて次第に同国人同士のコミュニティへの依存度を高める傾向が見られる。家族を呼び寄せたり現地結婚するなどして定住化すると、子供の教育問題も発生する。



西村 健宏

福屋 研究室

設計 主旨

日本では、少子高齢化が進んでいる。それにより、若年労働力の比率が下がってきている今、経済発展や規模を維持するには若年労働力の維持が必要不可欠である。

この若年労働力の維持という問題に対して日本経済は、外国人労働者で補っている。しかし、今現在は社会的統合がうまくいっておらず、地方都市で3つの問題が起こっている。

- 1_職
- 2_家
- 3_地域

この3つの問題を改善する事で、外国人労働による経済のグローバル化だけでなく、地域社会のグローバル化につながり、地方都市の労働力を維持する事で地域コミュニティも豊かになるのではないかと考える。

地方都市で独自の進化を遂げてきた産業や文化。それらを外国人労働者によって継承・発展させ、新たな文化をつくる事で、それに比例した生活環境がうまれるのではないと思う。

言語が共通ではなくても、自然と物事を共有できる対話生が張り巡らされた建築を目指す。

Program ドミトリー + 稲作・酒造蔵

STEP_1

地方都市の特色である産業に着目。

STEP_2

産業に技能実習制度として外国人労働者を雇う。

STEP_3

ドミトリーに、住んでもらう。実習生は学んだ事をここで試してみながら、生活する。

STEP_4

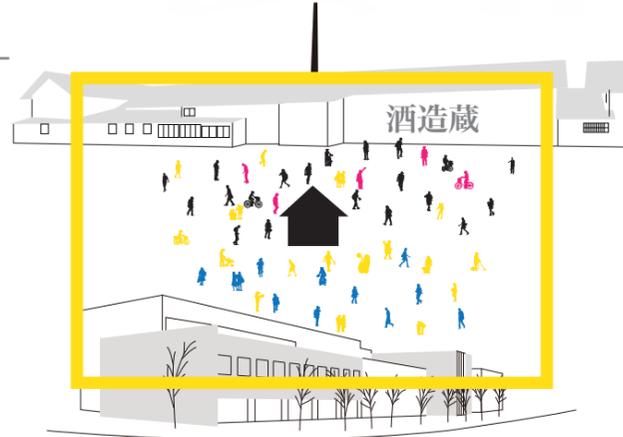
ドミトリーに、地域の学生も住み、交流のきっかけを生む。

STEP_5

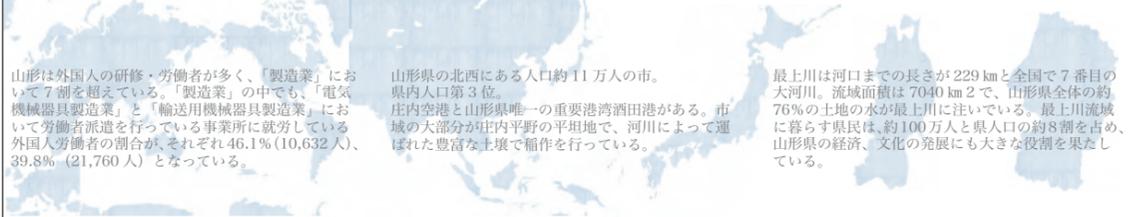
実習生が作ったモノを地域の方に、試飲・試食してもらう。

STEP_6

実習生と地域住民が交流となり、地域とのコミュニティが深くなるのではないかと



Site 山形県 酒田市 最上川



山形は外国人の研修・労働者が多く、「製造業」において7割を超えている。「製造業」の中でも、「電気機械器具製造業」と「輸送用機械器具製造業」において労働者派遣を行っている事業所に就労している外国人労働者の割合が、それぞれ46.1% (10,632人)、39.8% (21,760人) となっている。

山形県の北西にある人口約11万人の市。県内人口第3位。庄内空港と山形県唯一の重要港湾酒田港がある。市域の大部分が庄内平野の平坦地で、河川によって運ばれた豊富な土壌で稲作を行っている。

最上川は河口までの長さが229kmと全国で7番目の大川。流域面積は7040km²で、山形県全体の約76%の土地の水が最上川に注いでいる。最上川流域に暮らす県民は、約100万人と県人口の約8割を占め、山形県の経済、文化の発展にも大きな役割を果たしている。



Diagram 問題点の改善法

